

岩手県感染症週報

平成26年第25週(6月16日～6月22日)

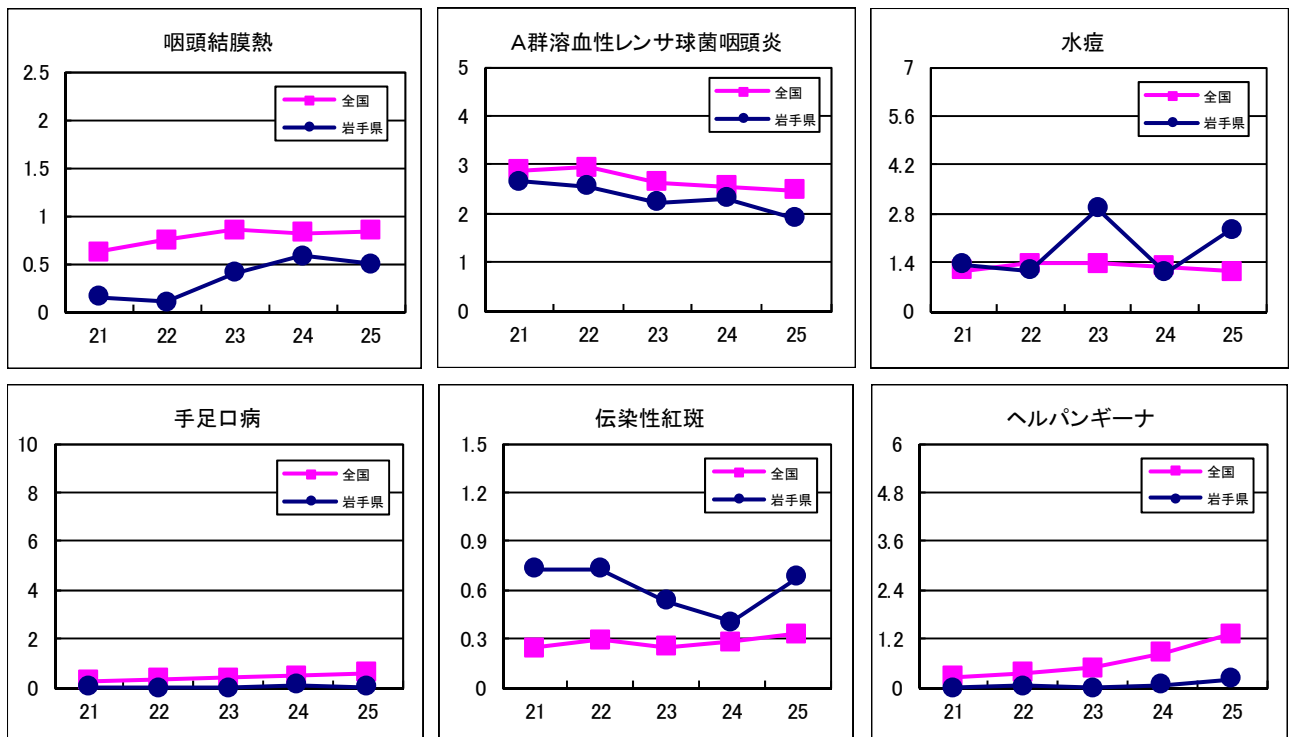
岩手県感染症情報センター

第25週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の患者の報告が16例(報告遅れが12例)ありました。そのうち潜在性結核感染症は4例です。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症の報告が、県央地区から2例ありました。今年これで10例目です。例年夏期に患者が増加するので、食中毒予防の徹底と、二次感染を予防するために石けんと流水を用いた手洗いの励行が重要です。
- 4 類感染症 ・E型肝炎の報告が、盛岡市から1例ありました。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・患者発生 の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・水痘(みずぼうそう)は、大船渡地区で警報値(定点あたり患者数7人)を超えているほか、中部地区で注意報値(同4人)を超えています。年齢層別では1～4歳が多く、患者報告数の70%を超えています。感染経路は、飛沫および接触感染です。症状は発疹と発熱で、発疹は全身性で掻痒を伴い、紅斑から水疱となり痂皮(かさぶた)化します。発疹が現れる1～2日前から、痂皮化するまで感染力があるので注意が必要です。予防には、任意ですが、ワクチン接種が有効です。
 - ・伝染性紅斑(リンゴ病)は、一関地区で報告数が増えており、この週は警報値(同2人)を超えました。盛岡市および中部地区でも多くなっています。

最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		21	22	23	24	25		
インフルエンザ	岩手県	2.11	1.66	0.36	0.16	0.14	→	☆
	全国	0.56	0.35	0.17	0.13	0.1		
RSウイルス感染症	岩手県	0.05	0.05	0.03	0.05	0.03	→	
	全国	0.08	0.09	0.08	0.07	0.08		
咽頭結膜熱	岩手県	0.15	0.1	0.4	0.58	0.5	→	☆
	全国	0.62	0.75	0.85	0.82	0.84		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.65	2.55	2.23	2.3	1.9	→	☆
	全国	2.87	2.94	2.63	2.55	2.47		
感染性胃腸炎	岩手県	10.03	9.35	6.38	4.9	4.58	→	☆
	全国	8.83	8.09	6.65	5.8	5.46		
水痘	岩手県	1.33	1.15	2.93	1.1	2.35	↗	☆☆
	全国	1.15	1.35	1.35	1.28	1.13		
手足口病	岩手県	0.03	0	0	0.1	0.03	→	
	全国	0.25	0.33	0.39	0.48	0.58		
伝染性紅斑	岩手県	0.73	0.73	0.53	0.4	0.68	↗	☆☆
	全国	0.24	0.29	0.25	0.28	0.33		
突発性発疹	岩手県	0.63	0.63	0.48	0.38	0.55	→	☆
	全国	0.65	0.69	0.7	0.65	0.67		
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0.03	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02		
ヘルパンギーナ	岩手県	0	0.03	0	0.05	0.2	→	☆
	全国	0.25	0.36	0.48	0.85	1.31		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.43	0.43	0.2	0.33	0.4	→	☆
	全国	0.29	0.32	0.35	0.31	0.35		
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.5	0.5	0.5	0.36	0.43	→	☆
	全国	0.58	0.59	0.64	0.68	0.66		
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0	0	0	0	→	
	全国	0.03	0.03	0.05	0.05	0.05		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.42	0.47	0.32	0.63	0.63	→	☆
	全国	0.26	0.28	0.25	0.29	0.26		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.47	0.21	0.11	0	0	→	
	全国	0.63	0.47	0.31	0.20	0.14		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	7	10	2	4	3		
	全国	33	25	14	14	14		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) が
2013年10週より対象疾患になりました。 (患者発生数)

	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		21	22	23	24	25	累計	25	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	10 (2)	3 (0)	14 (7)	8 (2)	16 (4)	134 (51)	405	11526
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	2	3	49
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	2	0	2	10	119	681
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	21
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	7
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	1	1	1	70
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	3	365
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	5
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	6
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	4	23
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	5
	つつが虫病	0	2	0	0	0	2	5	91
	デング熱	0	0	0	0	0	0	7	78
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	1	48
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	5
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	27
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	1
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	0	0	0	4	29	464	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	7	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

※侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症が第14週より、鳥インフルエンザ (H7N9) が第19週より届出対象疾患となりました。

分類	疾病名	(週) 岩手県					全国		
		21	22	23	24	25	累計	25	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	1	1	1	0	0	9	17	508
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	1	120
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	1	0	0	4	4	232
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	9
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	1	77
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	2	125
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	19	661
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	32
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	101
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	19
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	0	0	0	6	9	1037
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	8
	梅毒	0	1	0	0	0	2	20	703
	破傷風	0	0	0	0	0	2	3	51
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	24
風しん	0	0	0	0	0	1	3	224	
麻しん	0	0	0	0	0	0	14	391	
指定	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0

今注目の感染症

細菌性赤痢

細菌性赤痢は、赤痢菌による感染症で、わが国における発生患者数は戦後しばらくは10万を超え、うち2万人近くが死亡していましたが、1965年半ば過ぎから激減しました。最近では年間300人前後で推移しています。近年、日本で発生している細菌性赤痢の多くは、国外感染およびそれらの感染者からの二次感染、あるいは輸入食品による国内感染と推定されています。海外旅行で、帰国時に感染の疑いがある場合には、検疫所、保健所等で相談することが重要です。

感染経路は、患者や保菌者の便内の赤痢菌に汚染された水、食物による経口感染です。少ない菌量 (10から100個) で感染することから、ヒト-ヒト感染します。

赤痢菌属は、*Shigella dysenteriae*、*S.flexneri*、*S.boydii*、*S.sonnei*の4つに分類されます。岩手県内では、2006年から2014年3月までに、細菌性赤痢は9例届出があり、原因となった菌種は*S.sonnei*が8例で、*S.flexneri* 3aが1例でした。全国でも、*S.sonnei*が一番多く検出されています。

潜伏期間1～3日で発症し症状は全身の倦怠感、悪寒を伴う急な発熱、水様性下痢で、典型的な例では血便、しぶり腹 (テネスマス) を伴います。最近では重症例は少なく、数回の下痢や軽度の発熱で経過する事例が多く、特に*S.sonnei*の場合、軽度な下痢あるいは無症状で経過すると言われています。

2006年～2014年(第13週) 細菌性赤痢菌 一覧 岩手県

年	菌種	性別	感染地域
1 2006	<i>S.sonnei</i>	女性	エジプト
2	<i>S.sonnei</i>	男性	エジプト
3 2007	<i>S.sonnei</i>	女性	タイ
4	<i>S.sonnei</i>	女性	
5 2009	<i>S.sonnei</i>	女性	
6	<i>S.sonnei</i>	女性	
7	<i>S.sonnei</i>	男性	
8 2014	<i>S.flexneri</i> 3a	男性	
9	<i>S.sonnei</i>	女性	インド

今注目の感染症 (つづき)

つつが虫病

つつが虫病は、ツツガムシ病リケッチアに感染したツツガムシ (ダニの一種) の幼虫の刺咬により感染します (図1)。

岩手県での発生状況ですが、春から夏と、秋から冬にかけて2つの発生のピークがみられます (表1)。また、全県内で発生しています (図2)。

ツツガムシの生息しているような場所 (野山や田畑、河川敷等) に立ち入る場合には、肌の露出を少なくして、防虫剤 (ある程度効果が見込まれる) を適宜使用しましょう。帰宅後は速やかに入浴やシャワーなどで、ダニを洗い流すことも大切です。

潜伏期間は5日から15日間で、症状は発熱、刺し口、発疹が主要症状です。

つつが虫病は適切な治療を早期に受けることが重要です。野外での活動の後、疑わしい症状が出た場合には、早めに医療機関を受診しましょう。野外での活動のことを医師に伝えることも大切です。

参考：国立感染症研究所 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>

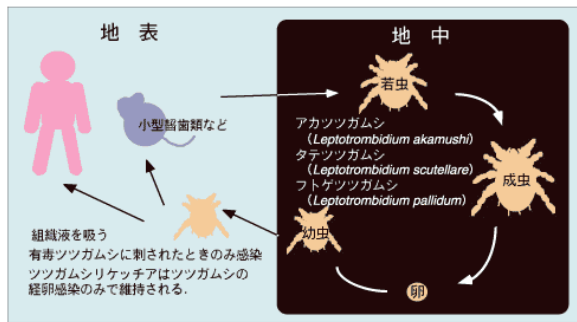


図1. ツツガムシの生活環

図1 ツツガムシの生活環
—国立感染症研究所HPより—

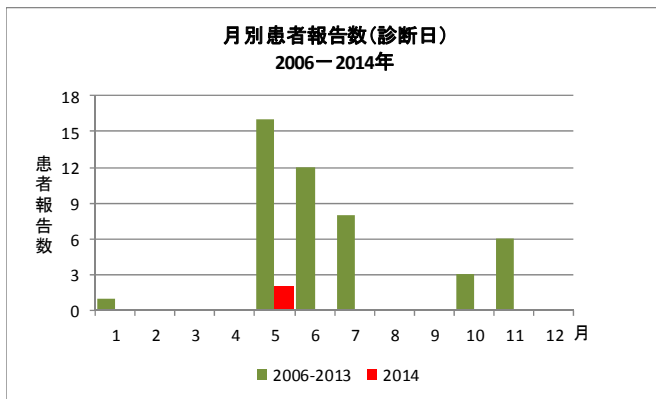


表1 岩手県内のつつが虫病の
月別報告数 (2006～2014年)

図2 つつが虫病患者の住所地
2008～2013年 岩手県



- 2013年(平成25年)
- 2012年(平成24年)
- 2011年(平成23年)
- 2010年(平成22年)
- 2009年(平成21年)
- 2008年(平成20年)

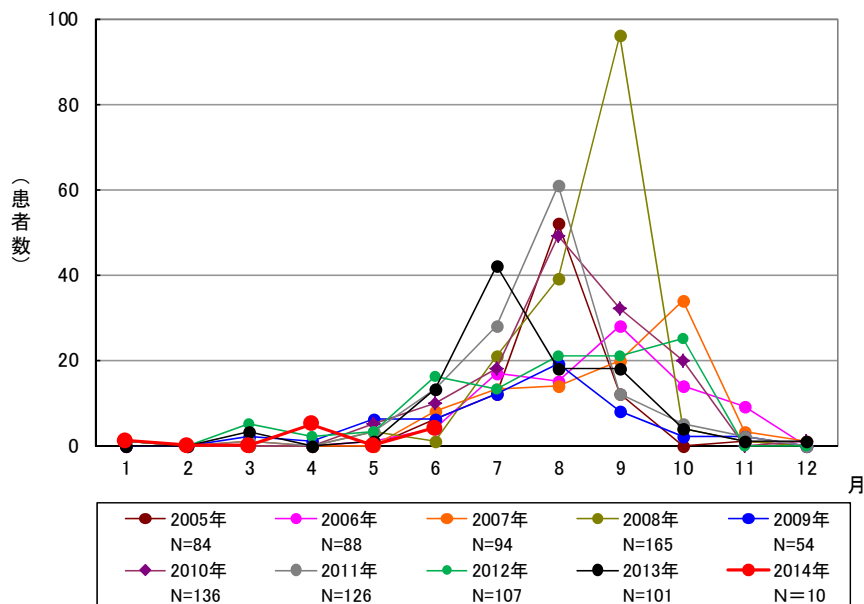
今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

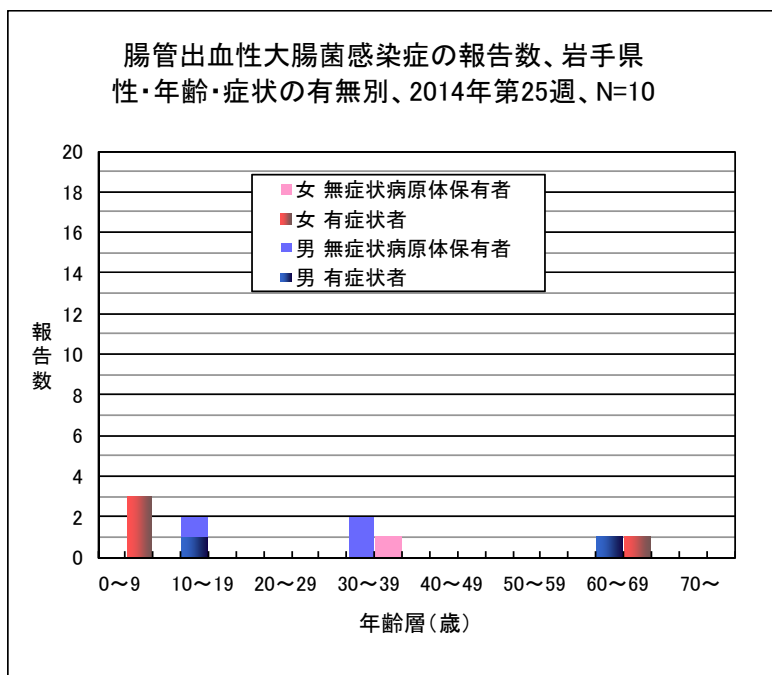
腸管出血性大腸菌感染症は、第25週までに10例の患者さんが報告されています。原因となった大腸菌は、O157が1例、O26が7例、O103が2例となっています。年齢層別では、0～9歳が3名、10から19歳が2名、30～39歳が3名、60～69歳が2名となっています。

予防には、食中毒予防の基本を守り、生レバーや加熱不十分な食肉等を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を予防するため、排便後・食事前の石けんと流水を用いた手洗いの励行も重要です。

腸管出血性大腸菌感染症 月別患者数
(岩手県2005年～2014年)



腸管出血性大腸菌感染症の報告数、岩手県性・年齢・症状の有無別、2014年第25週、N=10



病原体検出情報

- ・この週に病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

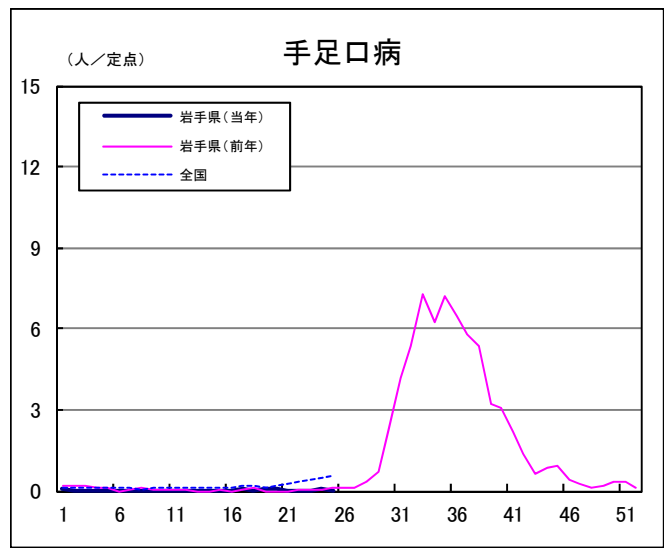
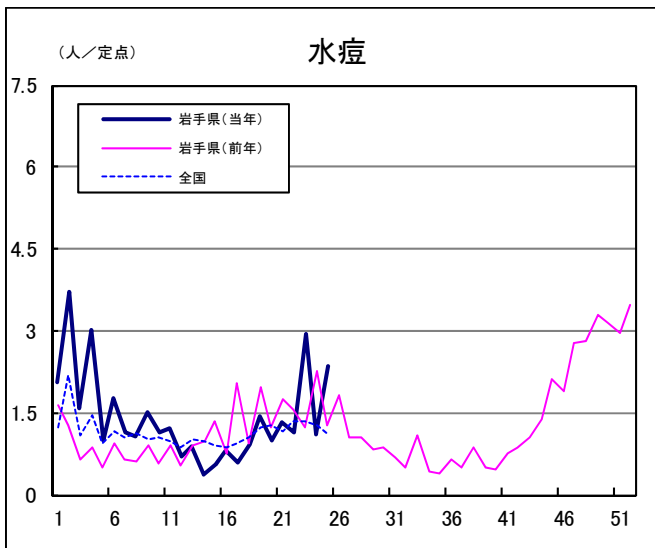
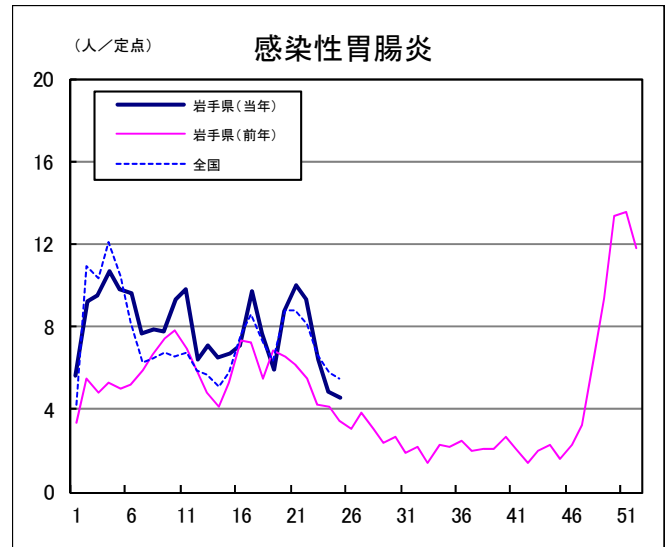
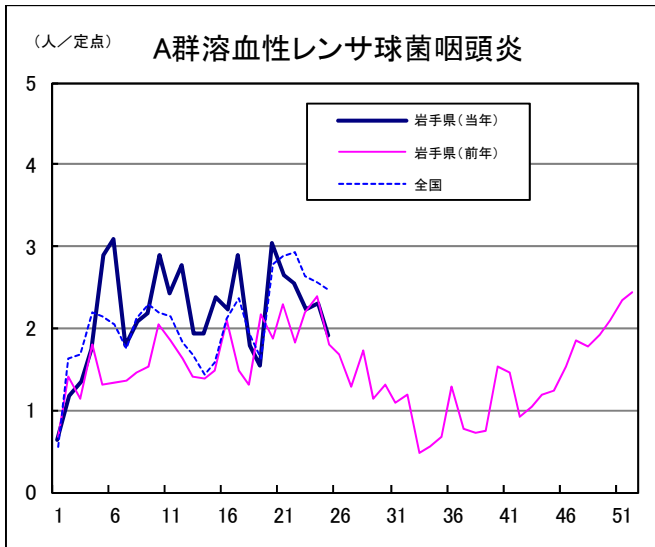
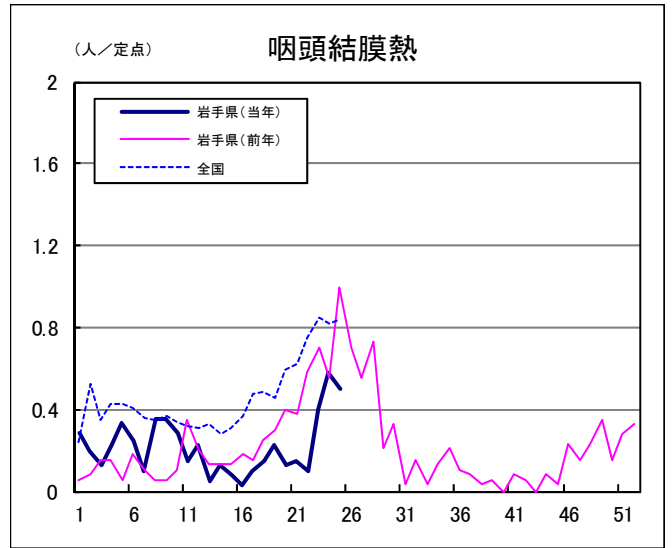
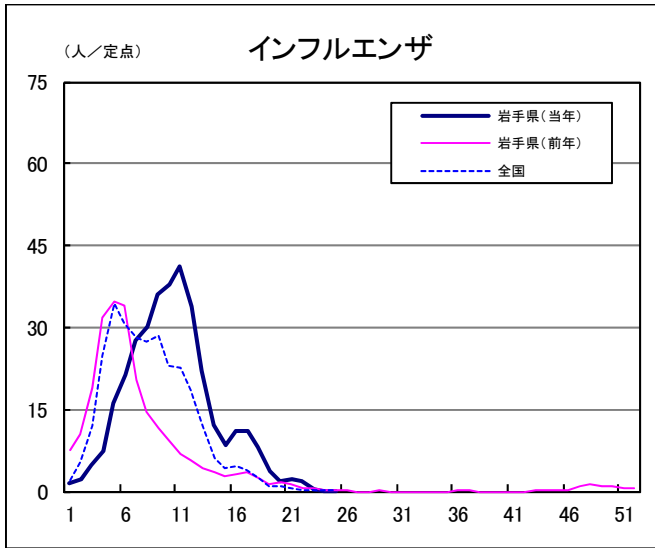
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

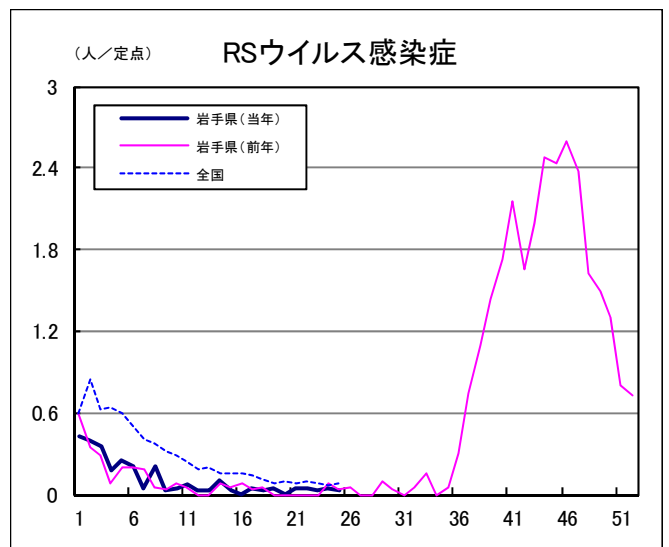
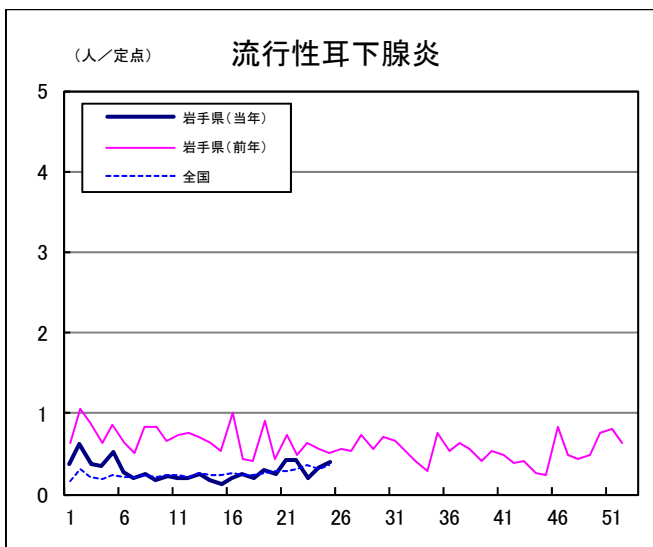
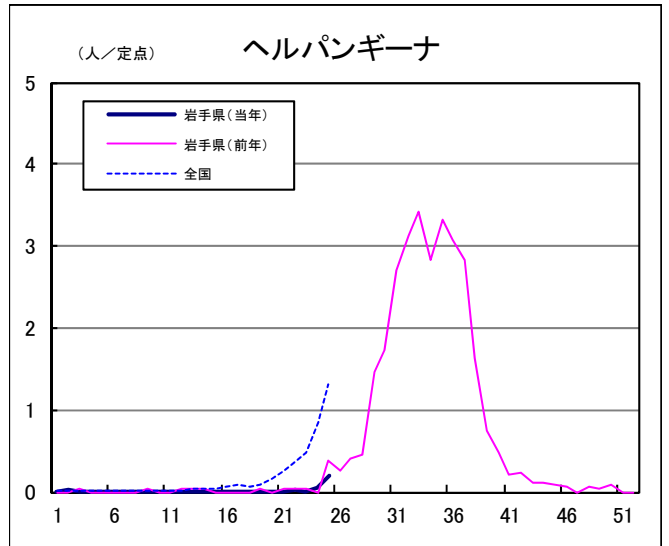
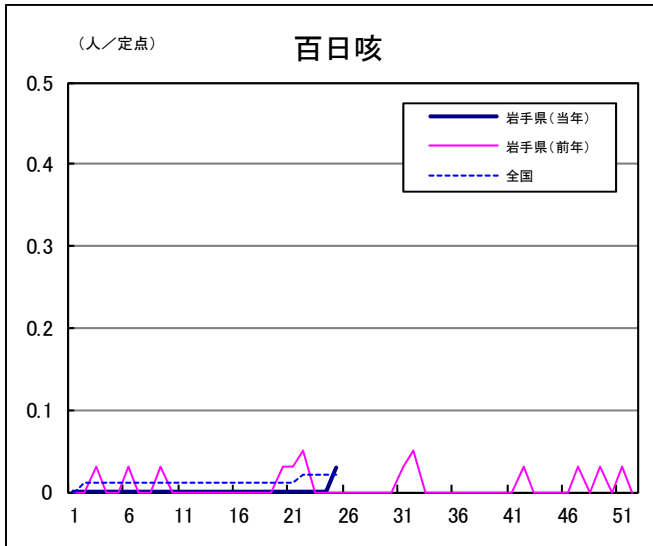
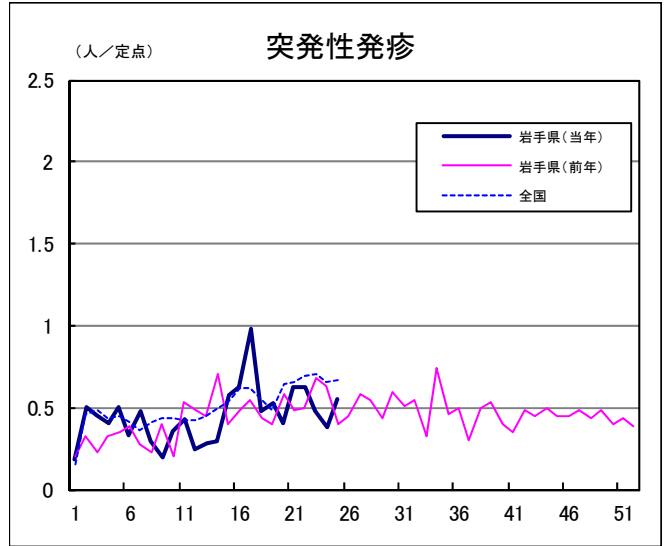
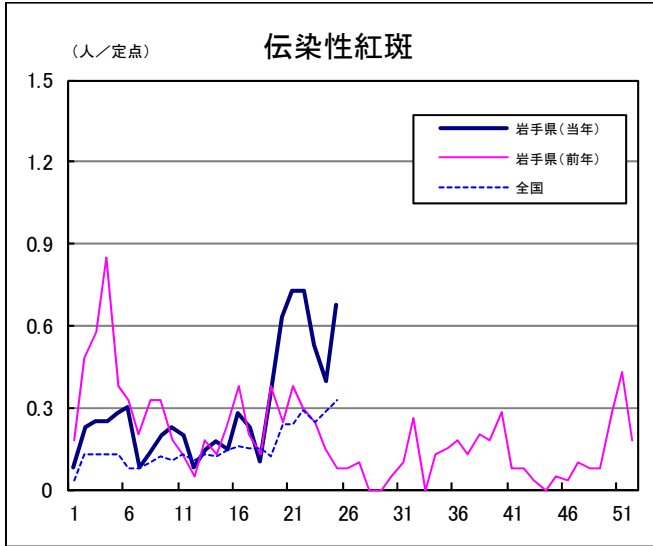
Q & A

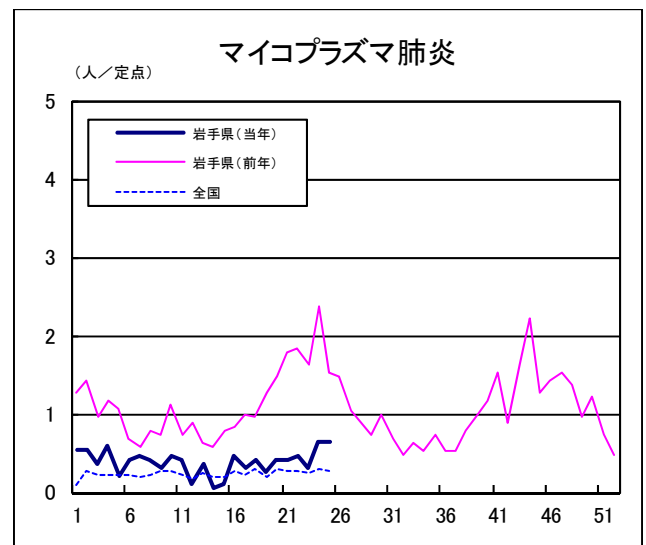
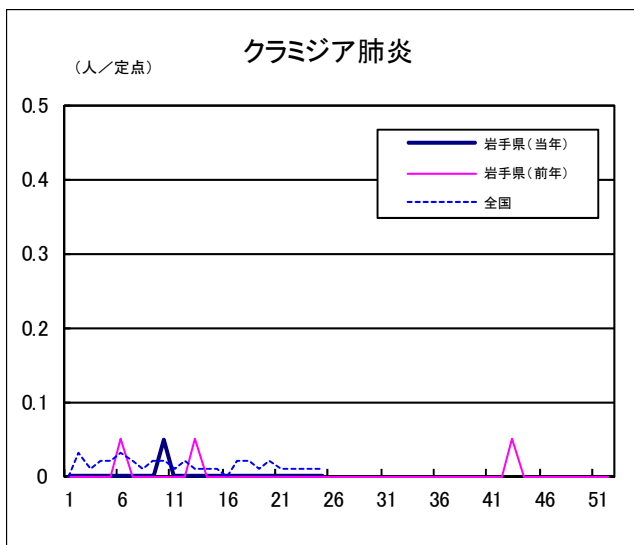
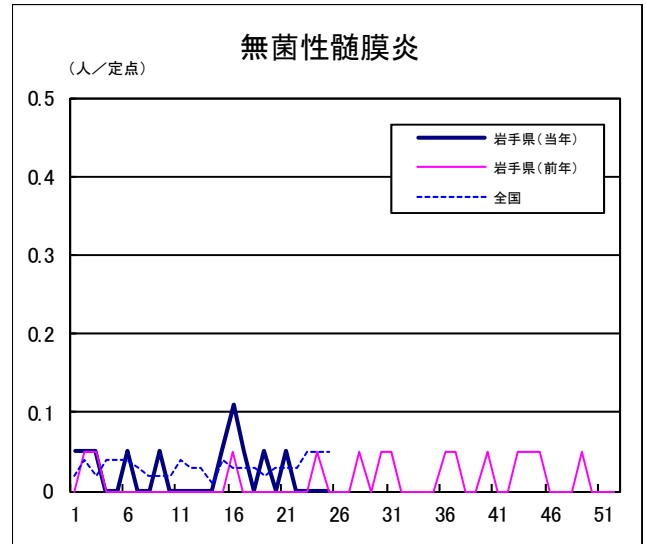
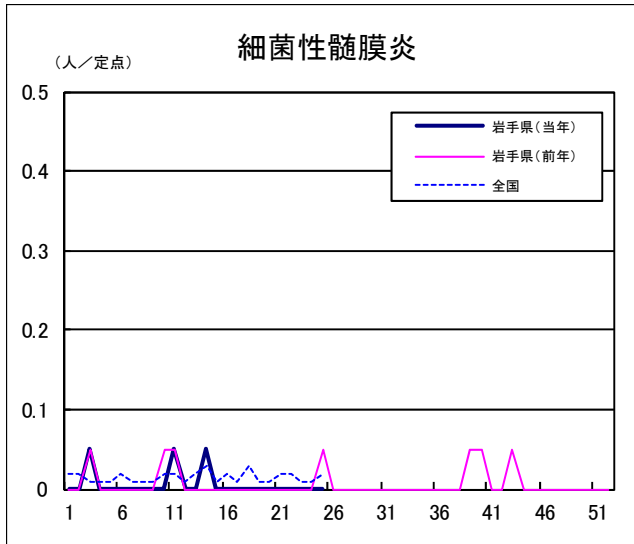
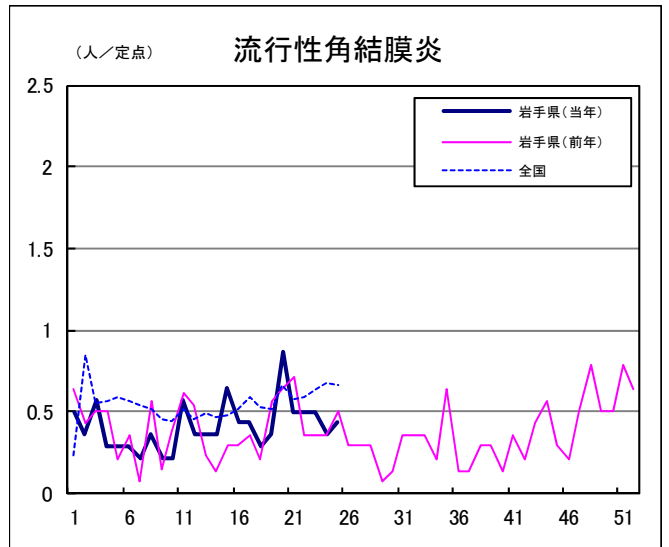
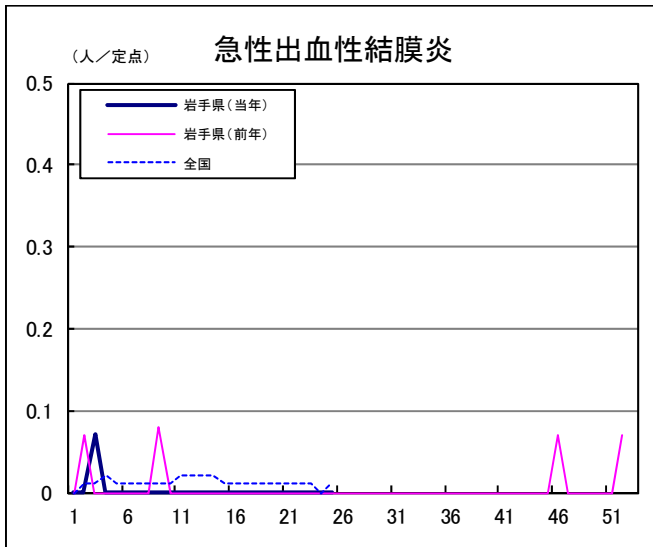
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター (岩手県環境保健研究センター保健科学部内)
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)
TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667
E-mail : CC0019@pref. iwate. jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	64	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	7	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成26年第25週 平成26年6月27日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=345&ik=3&pnp=17&pnp=60&pnp=345>

<岩手県保健福祉部医療政策室>